



あけましておめでとうございます

しいんとしていた園舎に元気な声が戻ってきました。「おとしだまもらった」「おまいりした」とたくさんの喜びの声が聞こえてきました。年末年始のお休みでは、にぎやかに過ごされた方、ゆっくりされた方と、様々だったかと思いますが、今年は年始から能登半島周辺で大きな地震があり、心を痛めている方も多いのではと思います。ご親戚やご友人が被災された方につきましては、謹んでお見舞い申し上げます。

突然ですが、ウクライナで戦争が始まり早2年が経とうとしています。昨年はイスラエルでも開戦し、負の連鎖が広がらないようにと祈念している毎日です。兵器を生産するお金ほど無駄なものはありません。その資金を教育費に充てたらどれほど世界が充実することでしょう。私たちの子どもが戦地へ向かわないとても、一人一人が何かしらのアクションを起こす必要があるのではないかと思います。私たちも微力ながら発信していこうと思います。

さて、1月の大きなめあては「元気に」です。今年は暖冬と言われてはいますが、寒気の流れ込みによりたくさん積雪したり、道路の凍結も起こりやすくなったりするほど気温が下がることもあることでしょう。そのような寒さに負けない体作りをして、心も体も元気に過ごせるようにしていきたいと思います。



保護者保育体験

12月11日(月)から開催された保護者の方による保育者体験ですが、今回は4人の方の参加がありました。なかでもれもんぐみが人気で、3の方に体験していただきました。

れもんぐみでたまたまマラソンの予定だった日は、保護者の方も子どもたちと一緒に走っていただきました。その他にも、のんびりお散歩を楽しんだり、ひろばで虫を探したり、ホールでじゃんけん列車をしたり、絵本を読んでいただいたら、たくさん関わっていただきました。給食の配膳の手伝いやお昼寝の手伝いをしていただいたりしました。

体験していただいた方の感想をいくつか紹介します(少し内容を修正しています)。

- 「絵本の読み聞かせのところは先生が普段から子どもたちに読んでいた内容だったので子どもたちが上手に拍子をとってくれてとてもやりやすく助かりました!! そしてとても楽しかったです。みんなと気持ちを分かち合えてとてもうれしかったです。」
- 「子どもたちに囲まれてとても楽しく良い経験ができました。家ではわがまま言いたい放題しますが、園ではがんばってるんだな~と思いました」
- 「園での様子がわかり、先生の大変さも知ることができ、とってもいい体験ができました。いい思い出になりました。」

と、大変うれしいお言葉をいただきました。保護者の皆さま、ありがとうございました。

Instagram、Facebook でも紹介しています。そちらもどうぞご覧ください。



じゃんけん列車の様子です



河原沿いをお散歩です



マラソン、2往復目です



ご飯をつぎ分けています



一緒に体操しています



園に帰っているところです



ゆっくりとお散歩です



食事の援助をしています



お昼寝の援助をしています

クリスマス会

12月22日(金)、クリスマス会が開催されました。今年は、3歳未満児(いちご・あんず・きういぐみ)は玄関ホールで、3歳以上児(すもも・かりん・れもんぐみ)は多目的ホールでの開催でした。

まず3歳未満児クラスが先に始まりました。あわてんぼうのサンタクロースと一緒に歌ったり、ジングルベルの歌に合わせて楽器を鳴らしたりして楽しい時間を過ごしていました。どの子もよく手が動いていて、楽器を上手に鳴らしていました。

歌が終わり、楽器を片付けていると突然エレベーターの扉が開き、中をのぞくとサンタさんからのプレゼントが入っていました。袋にはクラスの名前が書いたクリスマスカードが貼られていました。今年は、クラス宛にプレゼントが届いたようです。

各担任が中身を紹介し、クリスマスツリーをバックに記念撮影をしました。



オープニングセレモニーです



「お、なにかはじめた？！」



♪あわてんぼうのサンタクロース♪



“いそいでりんりんりん♪”



“あいたたどんどんどん♪”



「プレゼントがあつたよ～」

次に始まった3歳以上児クラスのクリスマス会は、れもんぐみの鍵盤ハーモニカ、「きらきらぼし」の演奏のオープニングで、華やかに始まりました。「サンタクロースに衣装を借りた」と言う石崎主幹保育教諭の司会で会が進行し、「クリスマスのプレゼントは何をお願いしたのかな」と子どもたちに尋ねると、すごい勢いで手を挙げ、声をあげていました。

みんなでクリスマスソングを歌った後、クラスごとで作った一人一人の飾りを司会が紹介していると、突然鈴の音がどこからか聞こえてきて、屋上から「どすん」と音がしました。慌てて本庄保育教諭が屋上へ行ってみると、プレゼントと手紙が置かれていたそうです。中身を開けてみると、みんなで遊べるプレゼントで、大喜びの子どもたちでした。



♪きらきらぼし♪演奏中です



「プレゼント、発表できる人いるかな？」



「まだ、きめていません」



♪さよならシャラランラン♪



「ぶれぜんとがあつたよ！」



「お手紙がついてたよ」

<1月の予定>

- 1月 9～12日 身体計測週間(すもも・かりん・れもんぐみ)
- 1月15～19日 身体計測週間(いちご・あんず・きういぐみ)
- 1月12日(金) かるた大会
- 1月25日(木) 誕生会
- 1月27日(土) 生活発表会(いちご・あんず・きういぐみ)
- 1月30日(火) 健康診断

《腎臓健診(尿検査)について》

すももぐみ、かりんぐみ、れもんぐみの園児を対象に、腎臓健診(尿検査)をします。1月12日(金)に検査キットを配布し、16日(火)に持ってきていただきます。どうしても採取できないときは、翌週23日に持ってきていただくようになります。詳しくは、キット配布のときにお知らせします。よろしくお願ひいたします。

子どもの脳の発達と心の育ち

東亞大学、純真短期大学 客員教授・キッドワールド総合園長 牧野 桂一

乳幼児の育ちに関する情報の中に、子育てと「脳の発達」に関するものが大変多く見られるようになりました。保護者の皆さんとの立ち話の中でも、子どものしつけや行動をとりあげて、それは脳の発達とどのような関係があるのかとすることなどを問われることが多くなっています。これまでの経験的な子育てに対して、脳科学的な考え方を加えて理解するということが求められているように思います。

脳に関する科学的な情報によると、私たち大人の脳の重さは約1,200gから1,500gくらいあるといいますが、オギヤーと生まれた赤ちゃんの脳は、大体350gから400gくらいで、それから2年経って2歳になりますと2倍近い700gくらいになり、3歳までには大人の約90%以上になるといいます。さらに5歳になると1,300g近くになり、6歳までには成人の脳の重さの約95%にもなり、12歳頃にはほとんど100%まで達するというのですから、驚きです。この脳の発達の姿を分かり易く教えてくれるのが「スキヤモンの発達・発育曲線」といわれるものです。この図での「神経型」というのが脳の発達のことを表しています。

この図を見てみると、脳の育ちにとって乳幼児期がいかに大切かということがよく分かります。この機会に、0歳～6歳頃までの脳の発達の特徴と周りの大人の関わり方について具体的に考えながら乳幼児期の重要性を考えみたいと思います。

(1)生後すぐから6ヶ月頃まで

生後すぐから6ヶ月頃までは、脳の中でも特に「見る、聞く、ぬくもりを感じる」などの「原始的な感覚領域」が育つといわれています。したがって親子の触れ合い、人間同士の触れ合いで感覚領域を刺激することが、脳を育てる土台づくりになるのです。

(2)生後6ヶ月から2歳頃

生後6ヶ月から2歳頃は、母国語、日本人であれば日本語の獲得、つまり言葉にかかわる領域が発達します。周りの大人にやさしく語りかけられ、抱っこされ、おむつを変えてもらい、たっぷりの愛情を注がれることで子どもは周りの大人に深い信頼感を抱きます。このような親子の愛着形成は非常に重要で脳が育つ基盤をつくります。

(3)2歳から4歳頃

2歳から4歳頃には、知的好奇心が発達します。「なぜなぜ期」といわれるよう、子どもの興味・関心が外の世界に広がり始め、自分と他者の区別ができるため、「なんでこうなるんだろう」といろんなことを知りたがるので、この知的好奇心を伸ばすために、図鑑や絵本などの知識と現実の体験とを結びつけてあげることが大切になります。

(4)3歳から5歳頃

3歳から5歳頃には、運動領域がめざましく発達します。歩く、走る、跳ぶなどの運動や、はさみを使う、楽器を演奏するなど指先の繊細な動きもできるようになってくる時期です。この時期には、有酸素運動(筋肉を収縮させる際のエネルギーに酸素を使う運動)を行うと、記憶にかかわる海馬(かいば)という部分の成長が促進され、記憶力をアップさせてるので、外遊びなどでたくさん体を動かすことが大切です。

もう一つ脳の発達には臨界期(ある能力を獲得するためには期限があること)があるということです。まさに脳の発達は、乳幼児期の今が人生の中で最も大切で「後で……」ということはできないということなのです。

脳の発達という面からもこの乳幼児期をしっかりと受け止めて子どもたちと関わっていきたいものです。

